

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 新設組織の概要	2
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）	
②新設組織の特色	
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	
③新設組織の主な学生募集地域	
④既設組織の定員充足の状況	
(3) 学生確保の見通し	11
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
ア 既設組織における取組とその目標	
イ 新設組織における取組とその目標	
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	
イ 競合校の入学志願動向等	
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）	
エ 学生納付金等の金額設定の理由	
③先行事例分析	
④学生確保に関するアンケート調査	
⑤人材需要に関するアンケート調査等	
(4) 新設組織の定員設定の理由	38

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要 (名称、入学定員 (編入学定員)、収容定員、所在地)

既設組織	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	所在地
北翔大学 生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科	220	15	910	北海道江別市文京台 23 番地

②新設組織の特色

社会情勢は少子高齢化をはじめとする急速な変化を遂げており、それに対応するため、スポーツ関連の政策指針も「第3期スポーツ基本計画 (文部科学省、令和4年3月)」や「第3期北海道スポーツ推進計画 (北海道、令和5年3月)」において改訂されている。こうした背景を受けて、令和8(2026)年度に設置予定の「北翔大学生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科 (以下、本学科)」は、生涯スポーツを「生涯にわたる各ライフステージにおいて、個人の興味・関心・年齢・体力等に応じて実施するスポーツ活動」と捉え、スポーツに関する高度な専門知識と実践的技術を学びながら、真の生涯スポーツ社会の実現を目指す。本学科では、「スポーツをする」「スポーツを観る」「スポーツを支える」という多角的な視点から、生涯スポーツ社会で活躍できる人間性豊かな人材を養成する。

これまでの既設学科であるスポーツ教育学科では、「スポーツ教育」「スポーツトレーナー」「競技スポーツ」の3つのコースにおいて、保健体育科教諭や競技スポーツ選手、トレーナー、地域スポーツクラブで高齢者への運動指導を行う指導者など、多くの卒業生を輩出してきた。同様に、健康福祉学科では、「スポーツ健康コース」「介護福祉コース (令和6年度からコース廃止)」「社会福祉コース」の3つのコースにより、スポーツを通じた健康・福祉分野に貢献できる人材を養成してきた。

今回設置を予定している生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科は、これまで2学科に分かれていた学科を統合し、スポーツ及び健康福祉分野を軸として、学術領域を基盤とした8つの専門分野 (学校教育、アスレティックトレーニング、アスリートコーチング、スポーツサイエンス、スポーツマネジメント、健康ウェルネス、社会福祉、健康まちづくり) を幅広く学び、地域社会と連携しながら社会課題に対応することを目指す。本学科では、既設学科の教育資源を最大限に活用し「多様な主体におけるスポーツ機会の創出」「スポーツを通じたまちづくり」「スポーツを通じた共生社会の実現」など、現代の社会的課題に対応

できる人材を養成する。

したがって、学位に付記する専攻分野の名称を「学士（スポーツ科学）」と「学士（社会福祉学）」とする。

新設組織の設置に伴い、既設のスポーツ教育学科及び健康福祉学科では、令和 7(2025)年度入学者の受け入れをもって学生募集を停止し、在学生在が卒業後に廃止される。廃止までの期間における在在生への教育環境の維持には万全を期し、所属教員及び施設・設備については本学科に移管される。既設学部の概要は以下のとおりである。

既設組織	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	学位の名称	所在地
北翔大学 生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科	180	10	740	学士(スポーツ教育学)	北海道江別市 文京台 23 番地
北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科	40	5	170	学士(健康福祉学)	

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

スポーツは、国民に誇りと喜び、夢と感動、勇気、楽しさを提供するだけでなく、少子高齢化社会や地域間格差、生活習慣病の増加といった現代の社会的課題に対しても重要な役割を果たす。特に、少子高齢化が進む中で、すべての世代が「Well-being」を実感できる社会の実現が重要な課題となっており、スポーツを通じた心身の健康の維持・増進がその実現に向けた鍵となる。そのような中、「第3期スポーツ基本計画（文部科学省、令和4年3月）」では、これまでの計画に加え、社会情勢の変化に対応した政策が展開されている。具体的には、ライフスタイルの変化、情報化社会・技術の進歩、そしてグローバル化・国際化の進展に応じて、運動・スポーツに関連する新たな施策が導入されている。また、国内における少子化の進行は深刻化しており、特に児童数の減少や生徒数（中学生）の減少が加速している。これにより、青少年のスポーツ活動の基盤である学校部活動の重要性が再認識される一方で、その役割を地域社会に移行・展開することが求められている。地域スポーツ環境の構築においては、学校と地域が連携し、持続可能なスポーツ活動の基盤を作り上げていくことが重要である。

特に北海道では、高齢化が全国平均を大きく上回る状況にあり、全市町村の約8割で過疎化が進んでいる【資料1】。さらに、積雪期における行動制限や運動場所の不足が、子どもたちの体力や運動能力の低下【資料2】【資料3】、肥満者の増加を引き起こしていることが指摘されている【資料4】【資料5】。このような雪国特有の健康課題に対処するためには、スポーツと健康に関する研究や実践的なアプローチがますます重要となっており、その解決に向けた人材の需要は急増している。

このような状況の中、本学科では、生涯スポーツに関する8つの専門分野（学校教育、アスレティックトレーニング、アスリートコーチング、スポーツサイエンス、スポーツマネジメント、健康ウェルネス、社会福祉、健康まちづくり）を設定することにより、多様な学びを学生に提供し、スポーツに関する幅広い要請に応えることができる高度な専門知識と実践的技術を備えた人材を養成することが可能となる。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学科を設置する令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの18歳人口及び大学進学者数について、「リクルート進学総研マーケットリポート2023 全国版」を基に全国及び北海道の動向を予測した。18歳人口は、全国ではおおよそ10年間で1,092,664人から970,429人(令和8年度比88.8%)、北海道では41,168人から34,669人(令和8年度比84.2%)へと減少することが予測されている。同期間における18歳人口減少率は、令和8(2026)年を100%とすると、全国では11.2%、北海道では15.8%の減少率となり、北海道の18歳人口の減少率は全国平均と比較しても4.6ポイント高くなることが予測されている【資料6】。

しかし、文部科学省がまとめた「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)(中教審第211号)」によれば、18歳人口が減少し続ける状況下においても、高等教育機関への進学率は上昇し、令和22(2040)年の大学進学率は57.4%となり【資料7】、平成29(2017)年と比較すると4.8ポイント増加することが見込まれるとされている。同様に、第13回中央教育審議会大学分科会将来構想部会(第9期～)(平成30年2月)「大学への進学者数の将来推計について」によれば、令和17(2035)年における北海道の大学進学率は54.4%とされている【資料8】。実際に「リクルート進学総研マーケットリポート2023 北海道版」では、平成26(2014)年の大学進学者数は15,480人(大学進学率35.5%)であったが、令和5(2023)年には17,603人(大学進学率48.1%)と13.7%(大学進学率は12.6%)増加していることが明らかとなっている【資料9】。

また、平成26(2014)年から令和5(2023)年の10年間の地元残留率をみると、北海道はエリア別では令和5(2023)年時点で65.6%(全国平均44.8%)と全国で最も高い数値を示し

【資料 10 (図 1)】、都道府県別でも、愛知 (72.1%)、東京 (68.3%) に次ぐ 65.6%と 3 番目に高い数値を示している【資料 10 (図 2)】。

平成 26(2014)年の地元残留率を 100%とした場合、令和 5(2023)年の地元残留率は 95.9%となり【資料 10 (図 1)】、この減少率が同率のまま推移すると仮定した場合、令和 17(2035)年の北海道における地元残留率を推計すると 62.9%となる (令和 5 年の地元残留率 65.6% \times 0.959)。

以上の推計から、北海道では、令和 17(2035)年度にはおおよそ 18,859 人 (2035 年推計 18 歳人口 34,669 人 \times 推計大学進学率 54.4%) が大学へ進学し、そのうち 11,862 人 (地元残留率推計値 62.9%) が北海道内の大学へ進学することが予測される。したがって、北海道内における大学進学者は一定数あり、中長期的な学生確保については十分に可能である (表 1)。

表 1 令和 17(2035)年度における大学進学者数推計値

項目	推計値	出典・備考
18 歳人口	34,669 人	リクルート進学総研マーケットリポート 2023
大学進学率	54.4%	第 13 回中央教育審議会大学分科会将来構想部会 「大学への進学者数の将来推計について」
大学進学者数	18,859 人	18 歳人口 \times 大学進学率
地元残留率	62.9%	令和 5 年の地元残留率 65.6% \times 0.959
北海道内進学者	11,862 人	大学進学者数 \times 残留率

③新設組織の主な学生募集地域

本学科は、北海道江別市にある本学と同一キャンパスに設置される。北海道の大学全体では、北海道に所在する高校からの入学者が73.5%を占めており、他都道府県からの入学者に比べて突出している【資料11（別紙1「出身高校の所在地県別入学者数の構成比」）】。

体育・スポーツ系学科を有する北海道の大学(本学、札幌国際大学、札幌大学、星槎道都大学)における、令和6(2024)年度の出身高校の所在地県別入学者数の構成比を表2に示した。本学を含めた4大学は、北海道に所在する高校からの入学者が86.8%～93.2%と高い値である。前項で述べた高い北海道の地元残留率も踏まえると、本学科の学生募集地域については、大学が所在する北海道が主なエリアとなる。

表2 北海道の体育・スポーツ系大学の出身高校の所在地県別入学者数の構成比

<北翔大学生涯スポーツ学部（令和6年度）>

	都道府県名	人数	構成比
1	北海道	205人	93.2%
2	青森	4人	1.8%
3	秋田	3人	1.4%
4	宮城・茨城・ 山梨・滋賀・ 三重・山口・ 宮崎	各1人	各0.45%
5	その他	1人	0.45%
	全体	220人	100.0%

<札幌国際大学スポーツ人間学部(令和6年度)>

	都道府県名	人数	構成比
1	北海道	138人	86.8%
2	青森	12人	7.5%
3	兵庫	4人	2.5%
4	神奈川	3人	1.9%
5	その他	2人	1.3%
	全体	159人	100.0%

<札幌大学(令和6年度)>

	都道府県名	人数	構成比
1	北海道	592人	92.6%
2	青森	13人	2.0%
3	沖縄	9人	1.4%
4	岩手	8人	1.3%
5	その他	17人	2.7%
	全体	639人	100.0%

<星槎道都大学(令和6年度)>

	都道府県名	人数	構成比
1	北海道	204人	90.7%
2	青森	4人	1.8%
2	秋田	4人	1.8%
4	岩手	3人	1.3%
5	その他	10人	4.4%
	全体	225人	100.0%

出典：各大学のホームページを基に作成

北海道の大学全体の定員充足率は、令和4(2022)年度は102.33%となっているが、令和5(2023)年度及び令和6(2024)年度については、それぞれ98.85%、94.86%となっている【資料11(別紙1「新設組織が置かれる都道府県への定員充足状況」)】。そして、日本私立学校振興・共済事業団「令和6年度(2024)私立大学・短期大学等入学志願動向」の地域別の入学定員充足率をみても、令和6(2024)年度は、関東(埼玉、千葉、東京、神奈川を除く)、東京、大阪、福岡は100%を超えているが、100%未満の地域が全国的に多い【資料12】。

しかし、同資料(日本私立学校振興・共済事業団)の「体育学」系統の入学定員充足率をみると、令和4(2022)年度104.22%、令和5(2023)年度100.02%と、入学定員充足率が100%以上となっている(表3)。令和6(2024)年度の入学定員充足率は98.05%であるが、体育学と同系統分野であるスポーツ科学部、スポーツ健康科学部、スポーツ健康学部の令和6(2024)年度の定員充足率はいずれも100%を上回っている。

このように、北海道の大学全体では、北海道に所在する高校からの入学者が7割以上を占め、特に、体育・スポーツ系学部においては北海道に所在する高校からの入学者が86.8%～93.2%と高い数値である。また、北海道の大学全体の入学定員充足率は、令和5(2023)年度及び令和6(2024)年度は、100%を下回っているものの、全国におけるスポーツ・健康系の直近3年間の入学定員充足率は100%を超えていることから、スポーツ・健康系に着目すれば、安定的に入学者数を確保することが見込める。

表3 私立大学における体育・スポーツ関係学部の入学定員充足率(%)

系統区分	学部	令和4年度	令和5年度	令和6年度
体育学	(記載なし)	104.22	100.02	98.05
その他	スポーツ科学部	108.10	110.76	109.93
	スポーツ健康科学部	102.27	108.97	107.94
	スポーツ健康学部	103.28	106.07	113.33

出典：日本私立学校振興・共済事業団「令和6年度(2024)私立大学・短期大学等入学志願動向、主な学部別の志願者・入学者動向」より作成

④既設組織の定員充足の状況

【資料13(別紙2-1,別紙2-2)】及び表4のとおり、既設学科である生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の過去5年間の入学定員充足率は平均1.20倍である。特徴として、選抜ごとの定員に対し、総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者数が多い。また、過去5年間の志願倍率(志願者数/入学者数)は、平均1.55倍と高く、スポーツ教育学科における教育活動や教員採用実績が受験生から評価され、多くの志願者数、入学者数を確保できている。

同学部健康福祉学科は、過去5年間の入学定員充足率は平均0.85倍である。特徴として、当該学科においても、総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者数が、他の選抜方法と比較して多い。過去5年間の志願倍率(志願者数/入学者数)は、平均1.37倍である。健康福祉学科は、少人数によるきめ細やかな教育活動を行っており、社会福祉士国家試験の合格実績も高い。スポーツ教育学科と1学部1学科に統合することにより、定員充足の可能性は十分にある。

表 4 既設学科における入学定員の充足状況(直近5年間)

学部	学科	項目	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	平均
生涯スポーツ 学部	スポーツ教育 学科	入学定員(人)	160	160	180	180	180	172
		志願者数(人)	325	338	300	361	273	319
		入学者数(人)	205	221	186	231	187	206
		入学定員充足率(倍)	1.28	1.38	1.03	1.28	1.04	1.20
		志願者倍率(倍)	1.59	1.53	1.61	1.56	1.46	1.55
	健康福祉 学科	入学定員(人)	60	60	40	40	40	48
		志願者数(人)	59	47	61	56	44	53
		入学者数(人)	42	32	45	43	33	39
		入学定員充足率(倍)	0.70	0.53	1.13	1.08	0.83	0.85
		志願者倍率(倍)	1.40	1.47	1.36	1.30	1.33	1.37
	学部合計	入学定員(人)	220	220	220	220	220	220
		志願者数(人)	384	385	361	417	317	373
		入学者数(人)	247	253	231	274	220	245
		入学定員充足率(倍)	1.12	1.15	1.05	1.25	1.00	1.11
志願者倍率(倍)		1.55	1.52	1.56	1.52	1.44	1.52	

本学の他学部他学科についてみると、【資料 13 (別紙 2-3, 別紙 2-4, 別紙 2-5)】及び表 5 及びのとおり、教育文化学部教育学科の過去 5 年間の入学定員充足率は平均 1.25 倍であり、志願倍率は平均 2.25 倍である。特徴として、選抜ごとの定員に対し、総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者数が多い。教育学科は、小学校教諭や養護教諭の採用実績が高く、多くの志願者数、入学者数を確保している。

芸術学科の過去 5 年間の入学定員充足率は平均 1.00 倍であり、志願倍率は平均 1.53 倍である。特徴として、選抜ごとの定員に対し、総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者数が多い。芸術学科は、学生のニーズに対応した少人数制教育、学内外における教育実践を行い、志願者や高校からの評価が高く入学定員確保に努めている。

心理カウンセリング学科の過去 5 年間の入学定員充足率は平均 1.15 倍であり、志願倍率は平均 1.86 倍である。特徴として、選抜ごとの定員に対し、総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者数が多い。心理カウンセリング学科は、公認心理師及び精神保健福祉士の資格取得を視野に入れた丁寧な教育を行い、今後も安定した入学者確保が期待できる。

表 5 既設学科における入学定員の充足状況(直近5年間)

学部	学科	項目	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	平均
教育文化 学部	教育学科	入学定員(人)	120	120	120	120	120	120
		志願者数(人)	395	365	335	288	297	336
		入学者数(人)	151	148	145	150	155	150
		入学定員充足率(倍)	1.26	1.23	1.21	1.25	1.29	1.25
		志願者倍率(倍)	2.62	2.47	2.31	1.92	1.92	2.25
	芸術学科	入学定員(人)	50	50	50	50	50	50
		志願者数(人)	66	64	81	95	72	76
		入学者数(人)	44	42	49	71	44	50
		入学定員充足率(倍)	0.88	0.84	0.98	1.42	0.88	1.00
		志願者倍率(倍)	1.50	1.52	1.65	1.34	1.64	1.53
	心理カウンセリ ング 学科	入学定員(人)	50	50	50	50	50	50
		志願者数(人)	146	92	100	112	87	107
		入学者数(人)	65	54	59	52	58	58
		入学定員充足率(倍)	1.30	1.08	1.18	1.04	1.16	1.15
		志願者倍率(倍)	2.25	1.70	1.69	2.15	1.50	1.86
	学部合計	入学定員(人)	220	220	220	220	220	220
		志願者数(人)	607	521	516	495	456	519
		入学者数(人)	260	244	253	273	257	257
入学定員充足率(倍)		1.18	1.11	1.15	1.24	1.17	1.17	
志願者倍率(倍)		2.33	2.14	2.04	1.81	1.77	2.02	

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

基礎となる既設の生涯スポーツ学部スポーツ教育学科及び健康福祉学科における学生確保の取組については、オープンキャンパスの実施、ホームページや各企業の媒体を利用したの大学案内の配付、進学相談会等のガイダンスへの参加及び高校訪問での進路指導教員への本学科の説明を実施している。【資料 14 (別紙 3)】に基づき、令和 5(2023)年度及び令和 6(2024)年度の既設のスポーツ教育学科及び健康福祉学科における過去 2 年間の実績を以下に示す。

オープンキャンパスは令和 5(2023)年度入試(令和 4 年度実施)においては年 6 回実施しており、合計 467 名がスポーツ教育学科及び健康福祉学科を希望し、うち 306 名が令和 5(2023)年度受験対象者であった。そのうち 206 名が受験し、158 名が入学した(受験率 67.3%、入学率 51.6%、入学定員に対する入学者比率 71.8%)。令和 6(2024)年度入試(令和 5(2023)年度実施)においては前年同様、年 6 回オープンキャンパスを実施しており、合計 409 名がスポーツ教育学科及び健康福祉学科を希望し、うち 254 名が令和 6(2024)年度受験対象者であった。そのうち 172 名が受験し、140 名が入学した(受験率 67.7%、入学率 55.1%、入学定員に対する入学者比率 63.6%)。

ホームページや各企業の媒体を利用したの大学案内の配付では、配付数については令和 5(2023)年度入試は、総数 19,725 名に配付し、スポーツ教育学科及び健康福祉学科の受験対象者は 7,926 名であった。そのうち 133 名が受験し、79 名が入学した(受験率 1.7%、入学率 1.0%、入学定員に対する入学者比率 35.9%)。令和 6(2024)年度入試については、総数 18,422 名に配付し、スポーツ教育学科及び健康福祉学科の受験対象者は 7,210 名であった。そのうち 87 名が受験し、49 名が入学した(受験率 1.2%、入学率 0.7%、入学定員に対する入学者比率 22.2%)。

進学相談会等のガイダンス参加では令和 5(2023)年度入試で 3,678 名と面談し、スポーツ教育学科及び健康福祉学科の受験対象者は 470 名であった。そのうち 53 名が受験し、43 名が入学した(受験率 11.3%、入学率 9.1%、入学定員に対する入学者比率 19.5%)。令和 6(2024)年度入試においては、3,963 名と面談し、スポーツ教育学科及び健康福祉学科の受験対象者は 473 名であった。そのうち 49 名が受験し、44 名が入学した(受験率 10.4%、入学率 9.3%、入学定員に対する入学者比率 20.0%)。

高校訪問について、令和 5(2023)年度入試は北海道内の高校を中心に 219 校を対象に訪問を行った。高校ごとに年間 1~2 回の訪問を行い、スポーツ教育学科及び健康福祉学科の受験対象者は 409 名であった。受験者総数 363 名のうち、236 名が入学した(受験率 88.8%、

入学率 57.7%、入学定員に対する入学者比率 107.2%)。令和 6(2024)年度入試は 218 校を対象に訪問を行った。前年度と同様に高校ごとに年 1~2 回の訪問を行い、スポーツ教育学科及び健康福祉学科の受験対象者は 317 名であった。受験者総数 269 名のうち、195 名が入学した(受験率 84.9%、入学率 61.5%、入学定員に対する入学者比率 88.6%)。

なお、上記の入学者は取組間での重複が生じており、集計した上での各年度の実人数と実数割合は令和 5(2023)年度が 267 名(51.7%)、令和 6(2024)年度が 213 名(49.7%)である。

オープンキャンパスは、入学定員に対する入学者比率が令和 5(2023)年度 70.9%、令和 6(2024)年度 63.6%と、全体の中でも高い値をとる PR 活動であった。本学のオープンキャンパスは、学科教員と参加者が直接対話する時間を設けており、学科内容を深く理解できる内容であることが、入学者確保に役立っているといえる。本学科においてもオープンキャンパスの参加者に対し、学科内容を丁寧に説明し、入学者確保に努めていく。

ホームページや各企業の媒体を利用した大学の案内の配付は、入学定員に対する入学者比率が令和 5(2023)年度 35.9%、令和 6(2024)年度 22.2%と、比較的効果の高い PR 手段であった。本学科においても、魅力ある学科内容を PR することができる大学の案内や各種パンフレットを作成する。

進学相談会等のガイダンス参加は、入学定員に対する入学者比率が令和 5(2023)年度 19.5%、令和 6(2024)年度 20.0%と、一定の成果が見られる取組であった。本学科においても、対面で学科内容を説明できる進学相談会やガイダンスを積極的に実施する。

イ 新設組織における取組とその目標

本学科における学生募集のための PR 活動については、(3) ①アで既述のとおり、既設の生涯スポーツ学部スポーツ教育学科・健康福祉学科の取組による成果が出ていることから、既設学科と同様にオープンキャンパスの実施、ホームページや各企業の媒体を利用した大学の案内の配付、進学相談会等のガイダンスへの参加及び高校訪問での進路指導教員への本学科の説明等を中心に取り組む方針である。【資料 14 (別紙 3)】に基づき、令和 5(2023)年度及び令和 6(2024)年度の既設のスポーツ教育学科及び健康福祉学科における過去 2 年間の実績から、それぞれの取組における目標値を以下に算出した。

- ・オープンキャンパスについては、受験対象者数が令和 5(2023)年度 306 名、令和 6(2024)年度 254 名の実績から、新設学科志望の受験対象者は、280 名を目標とする(表 6)。オープンキャンパスの実施については、テレビ CM による告知、リーフレット作成、メールや SNS を活用したデジタルでの配信を行う。

- ・ホームページや各企業の媒体を利用した大学の案内やリーフレットの配付については、

過去2年において7,926名（令和5年度）、及び7,210名（令和6年度）の実績から7,568名を受験対象者の目標とする。例年の取組に追加して、本学科のリーフレットを作成し、各進学支援媒体への広告を掲載することや、スポーツを中心とした志望学問分野及びエリアなどの選定を行い、戦略的にダイレクトメールを配信すること、SNSを活用した広告の配信を行う。

- ・進学相談会等のガイダンスへの参加者については、過去2年の実績（令和5年度470名、令和6年度473名）から受験対象者472名を目標とする。近年では高校からスポーツ系分野のガイダンスを依頼されることが多くなっていることから妥当な目標である。

- ・高校訪問においては、対象校を219校とし、過去の実績（令和5年度409名、令和6年度317名）から、受験対象者363名を目標とする。本学科のリーフレット及び特設サイトで魅力を伝えることにより、本学科においても例年と同水準以上の受験者を集められることを想定している。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

本学科で同様の取組を実施した場合に見込まれる入学者数について、次のとおり推計している。推計方法としては、(3)①イにおいて設定した目標値に、過去2年の平均受験率及び平均入学率を乗算し、受験者数及び入学者数の見込みを算出した（表6）。その結果、669名の受験者数となり、443名の入学者が見込まれる。なお、443名は、取組間の重複がある延べ数であるため、(3)①アで述べた実数割合の2ヵ年平均値である50.7%を乗算し、実人数は224名となる。令和8(2026)年度も同程度の受験者数及び入学者数が想定され、そちらを考慮すると220名の入学定員を確保できる見込みである。

表6 生涯スポーツ学科におけるPR活動ごとの目標値及び見込み入学者数

	目標値	推定受験率	推定入学率	受験者数	入学者数
オープン キャンパス	280人	67.5%	53.4%	189人	150人
大学案内配付	7,568人	1.5%	0.9%	114人	68人
ガイダンス	472人	10.9%	9.2%	51人	43人
高校訪問	363人	86.9%	59.6%	315人	182人
合計	8,683人			669人	443人

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【競合校の選定理由】

札幌国際大学、札幌大学、星槎道都大学、東海大学札幌キャンパスの4大学は、スポーツ分野の学びが可能であり、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）を取得でき、学校種・入学定員・学問分野・所在地・学力層において、北翔大学と類似性が高いため、競合校として選定した（表7）。

学校種は、すべて私立大学であり、地域密着型の教育を提供している。

入学定員に関しては、北翔大学生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科は220名、札幌国際大学スポーツ人間学部スポーツビジネス学科・スポーツ指導学科は140名、札幌大学地域共創学群スポーツ文化専攻は67名、星槎道都大学経営学部経営学科は120名、東海大学札幌国際文化学部地域創造学科は110名といずれも小規模から中規模程度であり、学生への個別指導がしやすい環境である。

学問分野は、スポーツ系学科を有し、教育・福祉との関連分野も充実している。

所在地は、すべて北海道内の主に札幌市近郊に位置し、進学希望者の居住地・通学圏が重なる。

偏差値は、いずれの大学も35から45であり、志願者層が競合している状況にある。

表7 本学及び競合校の学部学科名・学校種・入学定員・学問分野・所在地・偏差値

大学名	学部名	学科名	学校種	入学定員
北翔大学	生涯スポーツ学部	生涯スポーツ学科	私立	220
札幌国際大学	スポーツ人間学部	スポーツビジネス学科 スポーツ指導学科	私立	140
札幌大学	地域共創学群	スポーツ文化専攻	私立	67
星槎道都大学	経営学部	経営学科	私立	120
東海大学札幌	国際文化学部	地域創造学科	私立	110

大学名	学問分野	所在地	偏差値		
			河合塾	ベネッセ	駿台
北翔大学	スポーツ・教育・福祉	江別市	35	45	39
札幌国際大学	スポーツ・観光・福祉	札幌市	35	40	36
札幌大学	スポーツ・地域共創・経済	札幌市	35	43	39
星槎道都大学	スポーツ・デザイン・福祉	北広島市	BF	40	36
東海大学札幌	スポーツ・教養	札幌市	40	42	42

出典：河合塾 Kei-Net 大学検索システム (<https://search.keinet.ne.jp>)

ベネッセマナビジョン (<https://manabi.benesse.ne.jp>)

旺文社蛍雪時代 2024 年 8 月臨時増刊全国大学内容案内号

【競合校との比較分析】

北翔大学生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科と各競合校を、教育内容と方法、入試、学生納付金や奨学制度、就職支援、取得資格の 5 項目で比較する。

1) 教育内容と方法

本学科の教育内容には次の 4 つの特徴がある。

- ① 人々の各ライフステージに寄与できる 8 つの専門分野（学校教育・アスレティックトレーニング・アスリートコーチング・スポーツサイエンス・スポーツマネジメント・健康ウェルネス・社会福祉・健康まちづくり）を学ぶことができる。
- ② 学生一人ひとりの目標に合わせ、8 つの専門分野をクロスオーバーさせて学ぶことのできるカリキュラムが設定されている。

- ③ 充実した施設や設備をもとに実践を通して知識や技術を修得できる課題解決型授業や、どの分野の人材にも必要な基礎学力及び応用力を養成する全学共通科目や、総合大学の特色を生かした学部横断の学びや研究ができる。
- ④ 多様なバックグラウンドを持ち、先端の研究分野を担う教員陣により提供される、論理的思考力と技術の両方を身につけられる教育研究環境が整備されている。

札幌国際大学は、スポーツビジネスとスポーツ指導においては充実した教育内容となっている。札幌大学は、地域貢献活動・スポーツイベント運営実習を実施している。星槎道都大学は、少人数制で個別対応を行い、指導実習や地域フィールドワークを中心としている。東海大学札幌キャンパスは、スポーツだけでなく総合教養と専門教育のバランスを重視した教育内容となっている（表8）。

しかし、本学科で実施する学校教育・アスレティックトレーニング・アスリートコーチング・スポーツサイエンス・スポーツマネジメント・健康ウェルネス・社会福祉・健康まちづくりの8つの専門分野のすべてを網羅している大学はない。

専任教員数を比較すると、札幌国際大学21名、星槎道都大学22名、東海大学札幌キャンパス27名であるのに対し、本学科は、スポーツ・教育・健康・福祉・地域づくりなどを専門とする教員が38名おり、分野横断的で充実した教育が可能である。

以上のことから、競合校と比較して教育内容・方法における優位性がある。

表8 本学と競合校の教育内容・方法

大学名	教育内容・方法	専任教員数
北翔大学	8つの専門分野をクロスオーバーさせて実践的な指導法・現場実習、地域連携型授業の実施	38名
札幌国際大学	健康科学とスポーツマネジメントの融合	21名
札幌大学	地域貢献活動・スポーツイベント運営実習を実施	—*
星槎道都大学	少人数制で個別対応、指導実習や地域フィールドワーク	22名
東海大学札幌	総合教養と専門教育のバランス重視	27名

出典：各大学のホームページを基に作成

*学群制のため、スポーツ文化専攻の教員数は算出不可

2) 入試（競合校の受験時期、入学手続時期との関係）

令和6(2024)年度の総合型選抜日程（1期該当）及び一般選抜前期日程等は表9のとおりである。競合校と試験日程は重なっておらず、志願者にとって受験及び入学手続きがしやすい日程となっている。

表9 本学及び競合校の令和6(2024)年度入試日程

大学名	総合型選抜日程（1期該当）			学校推薦型選抜日程		
	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験日	合格発表日	入学手続締切日
北翔大学	10/5	11/1	12/16	11/17	12/4	12/16
札幌国際大学	10/19	11/1	1/16	11/16	12/2	1/31
札幌大学	10/12	11/1	11/15	11/24	12/4	12/18
星槎道都大学	10/12	11/1	11/15	11/16	12/2	12/13
東海大学札幌	10/20	11/1	11/14	11/17	12/2	12/13

大学名	一般選抜前期日程		
	試験日	合格発表日	入学手続締切日
北翔大学	2/6	2/20	2/27
札幌国際大学	2/1, 2/2	2/7	2/20
札幌大学	2/5	2/20	3/10
星槎道都大学	2/2, 2/3	2/17	2/27
東海大学札幌	2/2, 2/3	2/10	2/19

出典：ベネッセマナビジョン (<https://manabi.benesse.ne.jp>)

3) 学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容

本学及び競合校の学生納付金（初年度）は表10のとおりである。北翔大学は1,410,000円であり、競合校と比較するとやや高額である。この点に関しては、競合校と比較して同程度の充実した各奨学金制度を準備し、本学においても学生の金銭的負担の軽減を図ることとしている（表11）。

表 10 本学及び競合校の初年度納付金・奨学制度

大学名	初年度納付金	奨学制度
北翔大学	1,410,000 円 入学金 310,000 円 授業料 850,000 円 施設設備費 250,000 円	入学前：入学時成績優秀特待奨学生（学業・スポーツ・特技）、福祉・介護人材養成奨学金 入学後：成績優秀奨学生、修学支援奨学生、やる気チャレンジ奨学生、浅井淑子記念特別奨学生、淑萃会（本学同窓会）奨学金
札幌国際大学	1,160,000 円 入学金 230,000 円 授業料 820,000 円 施設設備費 50,000 円 教育充実費 60,000 円	入学前：一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜特別奨学金 入学後：家計応援奨学金、学業応援奨学金、卒業応援奨学金、入学金減免制度
札幌大学	1,100,000 円 入学金 200,000 円 授業料 770,000 円 施設設備費 120,000 円 教育充実費 10,000 円	入学前：学業特待制度 入学後：生活支援奨学金（課外活動・学業）、成績優秀特別奨学金
星槎道都大学	1,320,000 円 入学金 240,000 円 授業料 1,080,000 円	入学前：資格取得者特典制度、ファミリー特典制度、高大連携校特典制度、同窓生特典制度 入学後：貸与奨学金、学内ワークスタディ奨学金、特待生給付奨学金、災害給付奨学金
東海大学札幌	1,307,000 円 入学金 200,000 円 授業料 1,107,000 円	入学前：学修サポート給付型奨学金 入学後：学部奨学金、自己研鑽奨学金、建学記念奨学金、ワークスタディ奨学金、キャンパス間留学奨学金、スポーツ奨学金、国際交流奨学金

出典：各大学のホームページを基に作成

ベネッセマナビジョン (<https://manabi.benesse.ne.jp>)

表 11 本学及び競合校の主な奨学制度の詳細

大学名	奨学制度の内容
北翔大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時成績優秀特待奨学生：入学年度の後学期授業料から入学金相当額 31 万円を免除 ・ 成績優秀奨学生：後学期授業料から 10 万円を免除 ・ 修学支援奨学生：後学期授業料から 15 万円を免除 ・ 浅井淑子記念特別奨学生：前学期または後学期授業料免除
札幌国際 大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家計応援奨学金：秋学期授業料より年額 24 万円免除 ・ 学業応援奨学金：秋学期授業料より年額 10 万円免除
札幌大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援奨学金（課外活動・学業）：学期毎に授業料の全額・半額・1/4 相当額免除 ・ 成績優秀特別奨学金：学期毎に最大で授業料の半額免除
星槎道都 大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特待生給付奨学金：S ランク（年間授業料より 80 万円を減免） A ランク（年間授業料より 40 万円を減免） B ランク（年間授業料より 20 万円を減免） ・ 学内ワークスタディ奨学金：月額 5 万円以内の奨学金を給付 ・ 災害給付奨学金：授業料 80 万円（全壊）または授業料 40 万円（半壊）を給付
東海大学 札幌	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部奨学金：学期毎に 10 万円の給付 ・ 自己研鑽奨学金：文化活動、スポーツ活動、社会活動、ボランティア活動などに努力している学生に対し、個人 30 万円以内、グループ 50 万円以内の給付 ・ 建学記念奨学金：本学が指定する課題について独創力豊かな論文を提出した学生に対して 5～20 万円給付 ・ ワークスタディ奨学金：年額 30 万円の給付 ・ キャンパス間留学奨学金：28 万円もしくは 14 万円の給付 ・ 後援会奨学金：天災等により家計状況が急変した学生に一時金として 5～10 万円給付

出典：各大学のホームページを基に作成

ベネッセマナビジョン (<https://manabi.benesse.ne.jp>)

スタディサプリ (<https://shingakunet.com/>)

4) 就職支援の内容

既設の生涯スポーツ学部スポーツ教育学科・健康福祉学科と、競合校の令和 5(2023)年度就職状況は表 12 のとおりである。競合大学と比較して高い就職率であることがわかる。本学においては、就職ガイダンス、就職活動対策セミナー、就職相談・進路相談、学内企業研究会、インターンシップ、履歴書・面接指導などの就職支援を行っている。また、全学共通科目の就業力養成科目として、1 年次から 4 年次まで体系立てたキャリア教育科目を配置し、キャリア意識醸成のための講義や、社会人基礎力を養成するためのグループワークなどを実施している。これらの取組を通して各自の適性に応じた進路選択の支援を行っている。また、公務員試験、教員採用試験、社会福祉士国家試験等の各種資格試験に向けた支援を行っており、特に北海道内における高い教員採用の実績がある【資料 15】。

表 12 本学スポーツ教育学科・健康福祉学科及び競合校の就職率

大学名	学部名	学科名	就職率
北翔大学	生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	99.4%
		健康福祉学科	100%
札幌国際大学	スポーツ人間学部	スポーツビジネス学科	100%
		スポーツ指導学科	96.6%
札幌大学	地域共創学群	スポーツ文化専攻	95.6%*1
星槎道都大学	経営学部	経営学科	97.6%*1
東海大学札幌	国際文化学部	地域創造学科	92.8%*2

出典：各大学のホームページを基に作成

旺文社パスナビ (<https://passnavi.obunsha.co.jp>)

*1 大学全体の就職率 *2 学部全体の就職率

5) 取得できる資格

本学科及び競合校にて大学卒業後までに取得出来る資格は表 13 のとおりである。本学科では入学後に競合大学と比較して多くの資格取得が可能である。本学科には多くの教員が在籍しており、幅広い分野の学びが可能であることが、資格取得にも結びついている。

表 13 本学科及び競合校での取得可能な主な資格

大学・学部・学科名	取得可能資格
北翔大学 生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科	中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者) 健康運動指導士受験資格 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 共通科目Ⅲ 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験資格 日本スポーツ協会公認エアロビックコーチ1 受験資格 日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー受験資格 日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員受験資格 レクリエーション・インストラクター キャンプディレクター2 級受験資格 キャンプインストラクター受験資格 認定トレーニング指導者(JATI) 受験資格 初級パラスポーツ指導員 社会福祉士国家試験受験資格 介護職員初任者研修 社会教育主事任用資格(社会教育士)
札幌国際大学 スポーツ人間学部 スポーツビジネス学科 スポーツ指導学科	中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 小学校教諭一種・二種免許状(通信教育) 特別支援学校教諭一種・二種免許状(通信教育) 司書資格 社会教育主事任用資格(社会教育士) 日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー受験資格 認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト受験資格 パーソナルトレーナー受験資格

	<p>レクリエーション・インストラクター スポーツ・レクリエーション指導者 トレーニング指導者受験資格 公認コーチングアシスタント ジュニアスポーツ指導員受験資格 フィットネスクラブ・マネジメント技能士3級 健康運動指導士受験資格</p>
<p>札幌大学 地域共創学群 スポーツ文化専攻</p>	<p>中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 特別支援学校教諭一種免許状(知・肢・病) 認定トレーニング指導者(JATI)受験資格</p>
<p>星槎道都大学 経営学部 経営学科</p>	<p>中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 公認コーチングアシスタント パラスポーツ指導員 スポーツソーシャルワーカー資格</p>
<p>東海大学札幌 国際文化学部 地域創造学科</p>	<p>中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者(共通科目Ⅲ) 二級建築士</p>

出典：各大学のホームページを基に作成

旺文社パスナビ (<https://passnavi.obunsha.co.jp>)

イ 競合校の入学志願動向等

本学科と上記で競合校と設定した 4 大学の過去 3 年間の入学志願状況等の比較は表 14 のとおりである。既設の生涯スポーツ学部（スポーツ教育学科、健康福祉学科）においては、過去 3 年間の入学定員充足率は令和 4(2022)年度 105.0%、令和 5(2023)年度 124.5%、令和 6(2024)年度 100.0%と、いずれも適切な入学者数を確保できている。

札幌国際大学スポーツ人間学部（スポーツビジネス学科、スポーツ指導学科）は、令和 4(2022)年度 90.0%、令和 5(2023)年度 88.1%と入学定員確保ができていなかったが、令和 6(2024)年度 117.1%と多くの入学者数を確保することができていた。

札幌大学地域共創学群（スポーツ文化専攻）は、令和 4(2022)年度 150.0%、令和 5(2023)年度 136.6%、令和 6(2024)年度 134.1%と多くの入学者数を確保することができている。

星槎道都大学経営学部（経営学科）は、令和 4(2022)年度 99.2%、令和 5(2023)年度 89.2%、令和 6(2024)年度 91.7%と入学定員を確保することができていない。

東海大学国際文化学部（地域創造学科）は、令和 5(2023)年度 99.1%と入学定員確保ができていなかったが、令和 4(2022)年度 110.9%、令和 6(2024)年度 110.9%と入学定員を確保することができている。

以上のことから、北海道におけるスポーツ・健康系学部学科の入学志願者は多く、これまでの実績からも、入学者数を十分に確保できる見通しがある。

表 14 本学及び競合校の入学志願状況

大学・学部・学科名	年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
北翔大学 生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 健康福祉学科	令和4	220	361	360	310	231	105.0%
	令和5	220	417	410	329	274	124.5%
	令和6	220	317	316	297	220	100.0%
札幌国際大学 スポーツ人間学部 スポーツビジネス学科 スポーツ指導学科	令和4	140	*1	*1	*1	126	90.0%
	令和5	140	*1	*1	*1	159	88.1%
	令和6	140	*1	*1	*1	164	117.1%
札幌大学 地域共創学群 スポーツ文化専攻	令和4	80	222	220	175	120	150.0%
	令和5	80	166	163	149	109	136.6%
	令和6	85	182	181	161	114	134.1%
星槎道都大学 経営学部 経営学科	令和4	120	149	148	141	119	99.2%
	令和5	120	145	142	137	107	89.2%
	令和6	120	138	135	134	110	91.7%
東海大学札幌 国際文化学部 地域創造学科	令和4	110	*1	*1	*1	122	110.9%
	令和5	110	*1	*1	*1	109	99.1%
	令和6	110	*1	*1	*1	122	110.9%

*1 非公表のため算出不可

出典：各大学のホームページを基に作成

旺文社パスナビ (<https://passnavi.obunsha.co.jp>)

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校の札幌国際大学と星槎道都大学において、入学定員未充足の状況がある。

星槎道都大学は、中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得可能であるが、学部が経営学部・経営学科であり、スポーツを学ぶことができることを表す学部名となっていないため、入学者確保に苦戦していると考えられる。

札幌国際大学は、令和4(2022)年度と令和5(2023)年度は入学定員未充足であったが、令和6(2024)年度は117.1%と入学定員を確保することができている。

東海大学に関しても令和5(2023)年度は入学定員未充足であったが、令和4(2022)年度、令和6(2024)年度はいずれも110.9%と入学定員を確保することができている。

本学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の過去5年間の入学定員充足率をみると(表15)、令和2(2020)年度128.1%、令和3(2021)年度138.1%、令和4(2022)年度103.3%、令和5(2023)年度128.3%、令和6(2024)年度103.9%と安定した入学者確保ができている。それは、本学科卒業生が毎年非常に多くの教員採用試験に合格している実績が高校・受験生から評価されているためである。また、本学科においては、これまでのスポーツ教育学科で学ぶことができる内容の学校教育、アスレティックトレーニング、アスリートコーチングに加え、スポーツサイエンス、スポーツマネジメント、健康ウェルネス、社会福祉、健康まちづくりなど、幅広い内容を専門的に学ぶことができる。このスポーツを中心とした幅広い専門分野を学ぶことは、後述の高校生を対象としたアンケート調査においても、非常に評価が高かった。

以上のことから、新設組織である生涯スポーツ学科は競合校と比較して優位性を有していることから、入学定員は問題なく充足することができる。

表15 既設学部における過去5年間の入学定員充足率

学部	学科	項目	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
生涯スポーツ 学部	スポーツ 教育学科	定員数	160	160	180	180	180
		入学者数	205	221	186	231	187
		充足率	128.1%	138.1%	103.3%	128.3%	103.9%
	健康福祉 学科	定員数	60	60	40	40	40
		入学者数	42	32	45	43	33
		充足率	70.0%	53.3%	112.5%	107.5%	82.5%

【北翔大学の強み】

- ・人々の各ライフステージに寄与できる8つの専門分野（学校教育、アスレティックトレーニング、アスリートコーチング、スポーツサイエンス、スポーツマネジメント、健康ウェルネス、社会福祉、健康まちづくり）。
- ・学生一人ひとりの目標に合わせ、8つの専門分野をクロスオーバーさせて学ぶことのできるカリキュラム。
- ・充実した施設や設備をもとに実践を通して知識や技術を修得できる課題解決型授業や、どの分野の人材にも必要な基礎学力及び応用力を養成する全学共通科目、総合大学の特色を生かした学部横断の学びと研究。
- ・多様なバックグラウンドを持ち、先端の研究分野を担う教員体制により提供される、論理的思考力と技術の両方を身につけられる教育研究環境。
- ・教員採用試験の高い合格率など、充実したキャリア支援。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学科の入学年度における学生納付金は、入学金 310,000 円、授業料 850,000 円、施設設備費 250,000 円の年額 1,410,000 円に設定した（表 16）。競合校と比較すると、入学金は高額であるが、授業料を比較すると同等の金額であり、妥当な金額設定である。さらに、先述のとおり奨学金制度を充実させている。また、これまで 20 年間以上学生納付金の金額は変更していないが、入学者を十分に確保することができていることから、学生確保に支障を来すものではないと判断する。

表 16 学生納付金

内 訳	前学期 (入学手続時)	後学期 (9月30日)	初年度合計
入学金	310,000円	—	310,000円
授業料	425,000円	425,000円	850,000円
施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
合計	860,000円	550,000円	1,410,000円

③先行事例分析

本学と同規模の大学で、体育・スポーツ系の複数学科を 1 学科に統合した先行事例は見当たらなかった。そこでここでは、類似の改組を行った早稲田大学を先行事例として取り上げる。

早稲田大学は平成 15(2003)年にスポーツ科学に関わる教育・研究を、主に自然科学的な分野から行うスポーツ医科学科と、人文社会科学的な分野から行うスポーツ文化学科から成るスポーツ科学部を創設した。その後、平成 22(2010)年に 2 学科を統合し、スポーツ科学科に再編した。早稲田大学スポーツ科学部スポーツ科学科は 6 コース制であり、本学生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科は 8 分野制で類似した学びの領域を設定している(表 17)。本学と同様に、再編に伴い入試制度や入学金等の学納金の大幅な変更はない。

再編後から現在まで、令和 2(2020)年度および令和 4(2022)年度は入学定員をわずかに下回り、全体的に減少傾向にあるものの概ね入学定員を充足している(表 18 及び図 1)。再編後 10 年余りを経た、令和 5(2023)年度、令和 6(2024)年度においても入学定員を確保しているため、受験者全体の体育・スポーツへの関心は保たれているといえる。上述したように本学が位置する北海道においても、体育・スポーツ系大学への地元進学率が高いこ

とから、本学の入学定員も十分に確保できる。なお、初年度学生納付金については、早稲田大学と比較し本学は低く設定しており、今後も継続した入学定員の充足は可能である。

表 17 早稲田大学スポーツ科学科と本学生涯スポーツ学科の比較

大学・学部名	統合年	旧学科名称	統合後名称 (コース・分野)	定員	初年度学納金合計
早稲田大学 スポーツ科学部	2010年	スポーツ医科学科 スポーツ文化学科	スポーツ科学科 (6コース制) スポーツ医科学 健康スポーツトレーナー スポーツコーチング スポーツビジネス スポーツ文化	400名	1,736,000円
北翔大学 生涯スポーツ学部	2026年	スポーツ教育学科 健康福祉学科	生涯スポーツ学科 (8分野制) 学校教育 アスレティックトレーニング アスリートコーチング スポーツサイエンス スポーツマネジメント 健康ウェルネス 社会福祉 健康まちづくり	220名	1,410,000円

出典：早稲田大学のホームページを基に作成

(<https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/course/>)

表 18 早稲田大学スポーツ科学科の入学者数の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
定員数 (人)	446	472	456	457	448	437	432	419	404	406	396	411	386	418	416
定員比 (倍)	1.12	1.18	1.14	1.14	1.12	1.09	1.08	1.05	1.01	1.02	0.99	1.03	0.97	1.05	1.04

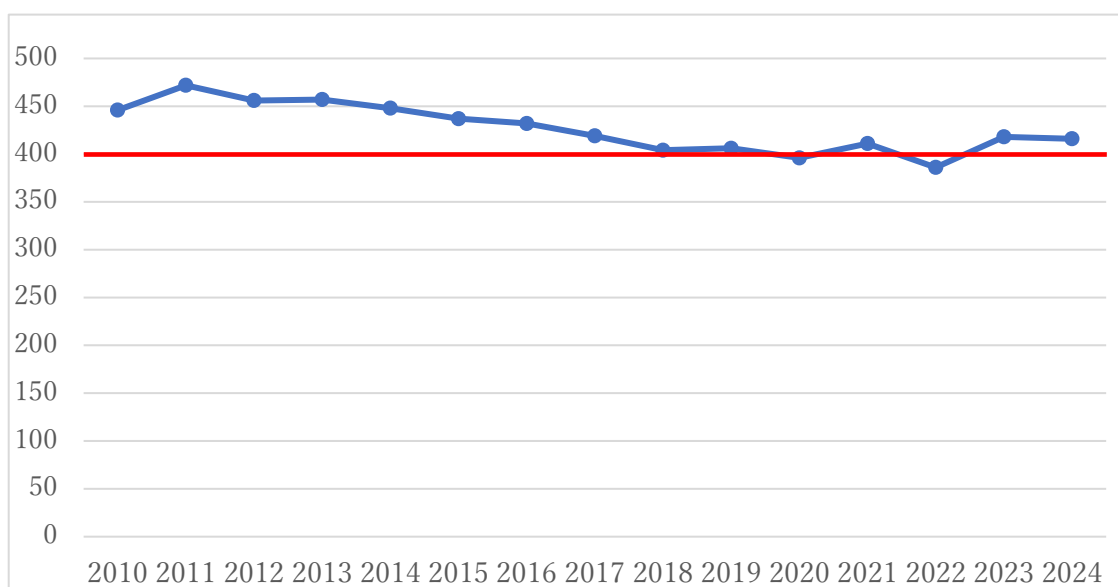


図 1 早稲田大学スポーツ科学部スポーツ科学科の入学者数の推移 (※赤字は定員数)

出典：早稲田大学のホームページを基に作成

(<https://waseda.app.box.com/s/i4rq3o8dze9zyslntyfov19ea88ffu71>)

④学生確保に関するアンケート調査

本学科の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握するため、学生確保に関するアンケート調査「北翔大学 生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科（仮称、設置届出予定）に関するアンケート」を行った【資料 16】。

調査概要については、以下のとおりである（表 19）。

表 19 調査概要

項目		高校生対象調査	
		調査①	調査②
調査対象		進学相談会等に参加した 近隣高校在籍者 (高校2年生)	オープンキャンパス参加者 (高校2年生)
調査エリア		北海道	
調査方法		郵送による依頼後、 Webアンケートにて回答	オープンキャンパス等イベント にて依頼し、Webアンケートにて 回答
調査対象数	依頼数	648名 (139校)	166名
	有効 回収数	27名 有効回収率：4.2%	166名
	合計	193名	
調査時期		2025年3月24日(月) ～4月8日(火)	2024年12月7日(土) ～3月16日(日)

本調査は、調査用紙【資料 17】と合わせて、学科概要（本学科の設置の理念、設置場所及びアクセス、学生納付金等の情報を具体的に示したもの）【資料 18】、及びリーフレット【資料 19】を配布し、実施した。有効回収数（193 名）のうち、以下の①～③の条件すべてに合致する回答者（169 名）を本学科のターゲット層と定義し、分析を行った。

- ・【Q2】卒業後の進路として「大学」を希望
- ・【Q3】志望する大学等の区分（設置者）として「私立」を希望
- ・【Q4】高校卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野として、「生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科」の学びと関連する「体育学（スポーツ科学）」「教育学」の学問分野を選択

ターゲット層の受験意向及び入学意向をクロス集計した結果は、以下のとおりである（表 20）。本学科を「第一志望で受験する」と回答した者の内、合格した場合「入学する」と回答した者（以下、第一志望者）は 119 名であり、ターゲット層の 70.4%を占めた。

表 20 受験意向及び入学意向の集計結果

上段：％ 下段：件数(名)		標本数	入学意向				
			入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	入学しない	未定	無回答
受験意向	第 1 志望	169	70.4 119	0 0	0 0	0 0	0 0
	第 2 志望		1.2 2	4.1 7	0 0	0.6 1	0 0
	第 3 志望以降		0 0	0.6 1	0.6 1	1.2 2	1.2 2
	受験を検討している		9.4 16	0.6 1	0 0	7.1 12	0 0
	受験しない		0 0	0 0	1.2 2	0 0	1.2 2
	その他		0 0	0 0	0 0	0.6 1	0 0

※1 受験意向に関する設問

【Q5】生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科が開設された場合、受験を希望しますか？次より 1 つ選択してください。

※2 入学意向に関する設問

【Q6】生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか？

本学科における様々な特色に関し、どの程度興味・関心を持たれているか調査した。本学科のターゲット層及び第一志望者が「非常に興味がある」又は「やや興味がある」と回答した件数は以下のとおりであり、第一志望者は特色Aが78.2%、特色Bが79.0%、特色Cが74.0%と高く、ターゲット層でも同様に70%台で興味・関心があることが分かった(表21)。

表21 本学科の特色に対するターゲット層及び第一志望者の評価

	標本数	特色A	特色B	特色C	特色D	特色E	特色F	特色G	特色H
上段：% 下段：件数(名)									
ターゲット層	169	77.5 131	77.5 131	71.0 120	53.9 91	40.2 68	42.6 72	30.8 52	36.7 62
第一志望者	119	78.2 93	79.0 94	74.0 88	55.5 66	42.9 51	47.9 57	31.9 38	38.7 46

※【Q4】生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科では、以下の内容を学ぶことができます。

以下、設問15までの各内容について、皆さんの興味・関心について、あてはまるものを選んでください。

・特色A：学校教育（保健体育・特別支援教育）

生涯スポーツやスポーツ科学に関する知識をベースに、運動やスポーツの楽しさを伝え、生徒の個性を伸ばすことができる保健体育科教員や、障害の状態や特性に応じた適切な指導・支援によって、生徒の可能性を最大限に伸ばすことができる特別支援学校教員を養成することを目的とする。

・特色B：アスレティックトレーニング（トレーナー）

スポーツをする人が直面する心身の多様な問題を自ら見つけ出し、スポーツ医科学のデータを活用しながら問題点に対する最善のコンディショニングを提案・指導できる人材を養成することを目的とする。

・特色C：アスリートコーチング（競技スポーツ選手、コーチ）

競技力を高めるために必要なアスリートマインド、トレーニング理論、コーチング理論、技術・戦術論、データ分析方法などを学び、高度な知識や技能を修得し、自他の競技力向上・パフォーマンス発揮ができるアスリート・指導者・コーチ・アナリストなどを養成することを目的とする。

・特色 D：スポーツサイエンス（スポーツ科学）

科学的知識と高度な専門性を基盤とし、エビデンスに基づいたアスリートサポートができる分析者を養成する。体系的なスポーツ科学の知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく判断力と実践力を養成することで、スポーツ現場で効果的な指導とサポートを提供し、社会においてリーダーシップを発揮できるプロフェッショナルを養成することを目的とする。

・特色 E：スポーツマネジメント（チーム経営・組織集団経営・運営）

生涯スポーツ現場でのビジネスモデルを探求していく中で、専門的なマネジメント理論を学ぶとともに、より実践的なマネジメント能力を有した人材を養成することを目的とする。

・特色 F：健康ウェルネス（健康づくり・介護支援）

運動・スポーツを活用した健康増進、介護予防モデルを探求する中で、あらゆる世代や層に対する健康づくりや介護予防、認知症予防、地域づくり、障害者支援、介護支援に関する理論と実践力を学び、スポーツ、健康、福祉の力で少子高齢化が進む現代社会を活性化できる人材を養成することを目的とする。

・特色 G：社会福祉（ソーシャルワーカー）

社会福祉学を基盤に、少子高齢化や過疎化などの生活問題と社会的課題を踏まえ、共生社会を実現するために必要となる専門的な知識や技術、価値・倫理を修得し、社会福祉士養成および公務員や民間企業など多様な分野で福祉マインドを有し主体的に取り組み活躍することができる人材を養成することを目的とする。

・特色 H：健康まちづくり（公務員・社会教育主事）

地域における社会教育の振興や地域活性化の推進に寄与する人材として、社会教育主事任用資格や社会教育士の称号取得に合わせて、地域活性化や地域づくりに関する知識・実践力を身につけ、「地域創生」の視点を持つことのできる地方公務員やNPO職員、民間など様々な人材を養成することを目的とする。

以上の調査結果のとおり、ターゲット層の第一志望者の「入学する」割合が高い回答を得られていることから、入学定員を充足することが予想される。また、本学科の特色に興味・関心のあるターゲット層が多くいることから、広報活動等を強化し、より多くの進学希望者の確保に繋げていくことで、安定した入学定員充足が見込まれる。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

【調査概要】

本学科の設置構想に関して、企業からの採用ニーズを把握するため、「採用意向調査北翔大学生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科（仮称）に関するアンケート」を行った【資料 20】【資料 21】。調査概要は、以下のとおりである（表 22）。

表 22 人材需要に関するアンケート調査の概要

調査対象	本学科卒業生の就職先として想定される企業の採用担当者
調査エリア	北海道、青森県、宮城県、福島県、東京都、神奈川県、富山県、長野県、静岡県、愛知県、兵庫県、鳥取県
調査方法	郵送による依頼後 Web アンケートにて回答
調査対象数	依頼数：241 社 回収数（回収率）：54 社（22.4%）
調査時期	2025 年 3 月 24 日（月）～2025 年 4 月 10 日（木）

【回答企業（回答者）の属性、採用状況等】

1)回答企業（回答者）の属性

本調査で回答者の人事採用への関与度合いを聞いたところ、「採用の決裁権があり、採用にかかわっている」人は 13.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が 72.2%であり、採用や選考にかかわっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる【資料 20 Q1】。

回答企業の本社（本部）所在地は、北翔大学の所在地である「北海道」が 77.7%と最も多く、次いで「東京都」が 7.4%、「愛知県」が 5.5%と続いた【資料 20 Q2】。回答企業の業種は「卸売・小売業」が 25.9%で最も多く、次いで「医療・福祉」が 13.0%、「その他」を除き「公務」が 11.1%と続いた【資料 20 Q3】。回答企業の正社員の従業員数は、「100 名～500 名未満」が 37.0%で最も多く、次いで「50 名未満」が 22.2%、「1,000 名～5,000 名未満」が 16.7%と続き、100 名以上の比較的規模が大きい企業が半数を上回った【資料 20 Q4】。

2)回答企業の採用状況（過去 3 か年平均）／本年度の採用予定数／採用したい学問分野

回答企業の平均的な正社員の採用人数は「1 名～5 名未満」が 29.6%と最も多く、次いで「5 名～10 名未満」が 22.2%、「10 名～20 名未満」が 14.8%と続き、毎年正規社員を採用している企業がほとんどであった【資料 20 Q5】。回答企業の 2025 年度入社採用予定

数（採用数）は、前年度比で「前年度並み」が40.7%で最も多く、次いで「増やす（増やした）」が31.5%であり【資料20 Q6】、回答企業の多くで昨年度以上の採用となることから、北翔大学の学生の採用も従来通り見込まれる。

採用したい学問分野を複数回答で調査したところ、本学科の学びと関連する「社会科学（法学、政治学、経営学、心理学など）」が59.3%、「健康・スポーツ科学（身体教育学、スポーツ科学、応用健康科学など）」が46.3%、「教育学（教育学、教育社会学、教科教育学、特別支援教育）」が46.3%、「社会学（社会学、社会福祉学）」が44.4%、「生活科学（衣・住生活学、食生活学など）」が44.4%、「人間医工学（生体医工学、リハビリテーション科学など）」が27.8%、「社会医学（疫学・予防医学、衛生学・公衆衛生学など）」が24.1%、「基礎医学（生理学一般、体力医学、栄養生理学など）」が20.4%、「その他」が13.0%となった【資料20 Q7】。

このことから、本学科の8分野をクロスオーバーさせたカリキュラムは、各企業が多岐にわたる分野を学んだ学生を求める採用ニーズに合致している。

3)北翔大学「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」の特色に対する魅力度

「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」の主な学びの特色（※）が、企業等にとって魅力的であるかを調査したところ【資料20 Q8～11】、4つの特色すべてにおいて90%以上の企業等から「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」という回答を得た（表23）。

この4項目の特色は、業種を問わず企業等が求める人材養成に必要な学びを示しており、企業等が望む人材と「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」の特色による人材養成が合致しているといえる。

※ 特色A：人々の各ライフステージに寄与できる8つの専門分野

〈専門分野〉

- ①学校教育 ②アスレティックトレーニング ③アスリートコーチング
- ④スポーツサイエンス ⑤スポーツマネジメント ⑥健康ウェルネス
- ⑦社会福祉 ⑧健康まちづくり

特色B：学生一人ひとりの目標に合わせ、8つの専門分野をクロスオーバーさせて学ぶことのできるカリキュラム

特色C：充実した施設や設備をもとに実践を通して知識や技術を修得できる課題解決型授業や、どの分野の人材にも必要な基礎学力及び応用力を養成する全学共通科目や、総合大学の特色を生かした学部横断の学びや研究

特色D：多様なバックグラウンドを持ち、先端の研究分野を担う教員陣により提供される、論理的思考力と技術の両方を身につけられる教育研究環境

表 23 北翔大学「生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科」の特色に対する魅力度

上段：% 下段：件数 (企業)	標本数	魅力度 (※)	とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない	無回答
特色 A	54	94.4 51	40.7 22	53.7 29	1.9 1	0 0	3.7 2
特色 B	54	90.7 49	42.6 23	48.1 26	5.6 3	0 0	3.7 2
特色 C	54	90.7 49	50.0 27	40.7 22	5.6 3	0 0	3.7 2
特色 D	54	90.7 49	48.1 26	42.6 23	1.9 1	1.9 1	5.6 3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値が必ずしも一致しない。

4) 北翔大学「生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科」の社会的必要性／採用意向／採用想定人数

・北翔大学「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」の社会的必要性

「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」について「必要だと思う」と回答した企業は 92.6% (50 企業) であり【資料 20 Q12】、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

・北翔大学「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」卒業生の採用意向／毎年の採用想定人数

「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は 87.0% (47 企業) であり【資料 20 Q13】、積極的な採用意向がうかがえる (表 24)。また、「採用したいと思う」と回答した企業へ、「生涯スポーツ学部 生涯スポーツ学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 108 名以上であり【資料 20 Q14】、無回答・未提出の企業数や、教員採用試験受検者数を含めると、入学定員 220 名と同等もしくはそれ以上の採用数が見込まれることから、安定した人材需要があるといえる (表 25、表 26)。

表 24 北翔大学「生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科」卒業生に対する採用意向

上段：% 下段：件数 (企業)	標本数	採用したいと 思う	採用したいとは 思わない	無回答
全体	54	87.0 47	7.4 4	5.6 3

表 25 業種ごとの企業数と採用想定人数

業種	回答企業 (社)	採用想定人数 (名)
サービス業	2	2
医療・福祉	7	6+ (5~9名)
卸売・小売業	14	37名以上
教育・学習支援	2	2
金融・保険業	3	4
警備業	2	20名以上
建設業	3	3
公務	6	6
自動車販売修理業	1	2
設備メンテナンス業	1	1
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1
不動産・物品賃貸業	4	8
複合サービス業	4	8
無回答	4	3
合計	54	108以上

表 26 教員採用試験受検者数・正規採用数・臨時採用数

採用年度	受検者数(名)	正規採用数(名)	臨時採用数(名)
令和4年度	45	10	9
令和5年度	44	14	17
令和6年度	45	15	12
令和7年度	47	20	18

(4) 新設組織の定員設定の理由

令和 8(2026)年度に新設を予定している生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科の入学定員を 220 名、編入学定員 15 名、収容定員 910 名と設定する。

本学が立地する北海道及び札幌圏においては、少子高齢化の進展に伴い、健康寿命の延伸、地域における運動・スポーツ実践の普及、スポーツボランティアや指導者の育成など、生涯にわたるスポーツ活動の支援に対する社会的要請が高まっている。「北海道スポーツ推進計画」や、札幌市の「健康さっぽろ 21 (第 2 次)」などの地域政策においても、運動・スポーツを通じた地域住民の QOL 向上が重視されており、教育機関、自治体、福祉・医療施設、スポーツ関連団体等における人材需要は今後も安定して見込まれる状況にある。このような地域社会の要請に応え、毎年 220 名の学生を受け入れることで、地域の生涯スポーツ推進に寄与する人材を持続的に輩出する体制を構築するものである。

本学科の設置は、既設の生涯スポーツ学部スポーツ教育学科及び健康福祉学科を基盤とした組織再編により行うものであり、既設学科の入学定員をそのまま移行する形となる。これまでの運営実績及び教育成果に鑑みて、本学科として同規模の定員設定を行うことは、教育体制や施設運用上の継続性・合理性の観点からも妥当である。なお、北海道内におけるスポーツ・健康系分野は一定の志願者数を維持しており、本学のスポーツ教育学科及び健康福祉学科における過去 5 年間の入学定員充足率は平均 1.11 倍であり、220 名の入学定員充足は今後も十分に見込まれ、本学科の定員設定には合理性がある。

教育内容との整合性については、8 つの専門分野を設定することにより幅広い基礎理論の習得から実践的スキルの修得に至る体系的なカリキュラムを編成する。講義・演習・実習を段階的に配置することで、学生の資質と能力を着実に育成することが可能である。これに対応する教育体制として、当該学科の専任教員数は 38 名であり、より多くの専門分野での学びを深めることが可能となり、また多種多様な資格取得を目指すことができる。

1 学科に統合された本学科の多様な専門分野やカリキュラムなどに対する魅力度は、高校生を対象とした調査結果においても肯定的な回答が 90%を超えており、期待の高まりと見ることができる。また、本学科を「第一志望で受験する」と回答した者の内、合格した場合「入学する」と回答した者は 70.4%を占めており、十分に定員を確保できる見込みがある。

さらに企業の採用意向のアンケート調査においても、採用意向を示した企業は 87.0%であったことから社会的ニーズも高いといえる。

以上の理由により、当該学科の入学定員を 220 名と設定することは、教育内容、教員体制、施設・設備、社会的ニーズ及び入学者見込み等の諸要因を総合的に判断したうえで、合理的かつ適切である。新設する「生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科」は、スポーツの

多様な価値を理解し、地域社会の健康増進や福祉、教育に資する専門人材の養成を目的としており、北海道における少子高齢化や地域スポーツの担い手不足、雪国特有の健康課題など、喫緊の地域課題に対応する学びを提供するものである。